



東京
おひさまベリー

そだてる

BOOK

4人の生産者に聞く魅力



インフォメーション

〒163-8001

東京都新宿区西新宿2丁目8番1号

東京都産業労働局農林水産部農業振興課

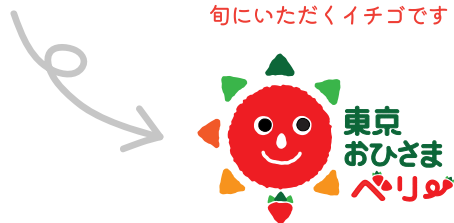
TEL: 03-5320-4832



「東京おひさまベリー」は、こんなイチゴ！

「東京おひさまベリー」は、東京都オリジナルの露地栽培用イチゴです。「おひさまいっぱい 旬にいただくイチゴです」のキャッチコピーのもと、明るい太陽の下で元気に育つ様子を表現したロゴマークが活躍中です！

おひさまいっぱい
旬にいただくイチゴです



どんな特徴があるの？

✔ 甘く、大きく、香りが良い！

従来の露地品種より糖度が高く、香りが良いです。

✔ 中まで赤い！

果肉が中まで赤いため加工しても色が綺麗です。

✔ 取り扱いやすい！

従来の露地品種より果皮や果肉がしまっているため傷みづらく、取り扱いがしやすいです。

露地栽培の魅力を教えて！

✔ 美味しい「旬」に収穫できます

イチゴ本来の旬である5月頃に収穫ができます。“旬の時期に旬のものを”求める消費者のニーズは年々高まっているんですよ。

✔ 様々な活用方法で楽しめます

販売用や摘み取り等体験用に栽培するだけでなく、ご家庭でプランター栽培もできるので、あらゆる人が楽しめます。

✔ ハウス等の施設が必要ありません

近年のイチゴ新品種は大半がハウス栽培用ですが、「東京おひさまベリー」は加温設備等が不要なため設備投資費用を抑えて始められます。化石燃料を使わず、生産者にとっても生産を持続しやすい露地栽培は、SDGs時代に合った栽培方法と言えるかもしれません。

東京都農林総合研究センターの開発者から 栽培を検討している生産者のみなさまへ



Message

開発にあたって

開発を始めた当時は、都内ではイチゴのハウス栽培はまだ少なく、畝売りに行う露地栽培が各地で見られました。露地用品種は「宝交早生」という品種しかなく、果皮、果肉ともに軟らかいため、すぐに傷んでしまいました。

そこで、露地栽培に適している、果実が大きく傷みにくい等の特徴を持つイチゴ品種の開発が始まり、約20年かけて品種登録に至りました。

こだわりのポイント

イチゴの旬は、ハウス栽培の場合は年末から春先ですが、露地栽培の場合は初夏です。露地で栽培する東京おひさまベリーは、冬の低温に当たり、完全に休眠が明けてから開花し、5月に収穫盛期を迎えます。

この頃のハウス栽培のものに比べ、甘みや酸味が濃く、イチゴ本来の味を楽しめます。

生産者のみなさまに向けて

東京おひさまベリーは収穫期が5月の1カ月に集中しますが、露地栽培ではハウスを必要としないという栽培上の利点が挙げられます。

一方、栽培期間が約9ヶ月間あり、比較的長いですが、東京ならではの畝売りや農業体験等により、太陽の下での摘み取りという特別感を演出することで、新たな価値を付加することができます。

ぜひ、栽培してみてください。

家庭向け
マニュアル

生産者向け
マニュアル



〈参考〉東京おひさまベリー栽培マニュアル(プランター栽培用)
〈参考〉東京おひさまベリー栽培マニュアル(令和2年度版)

Case 001
体験農園活用事例

つくればきっと、 魅力に感激する



農業体験農園「緑と農の体験塾」園主
加藤 義松さん

WEBSITE /



♥ お話を伺った加藤さん

全国に先駆け平成8年に「農業体験農園」を開設。また、全国で140団体が加盟する「全国農業体験農園協会」の理事長を務める。プロの農家の指導のもとで農産物を栽培し畑体験を楽しむこの空間は、毎年応募者が尽きないほど大人気。「東京おひさまベリー」は2020年導入。



♥ 栽培面積 152区画

株数 利用者用 約750株 [1区画5株] / 予備約200株

利用者 250名ほど

私が運営している農業体験農園「緑と農の体験塾」は、2週に1回の講習会を通して、都市部にいながら生産体験ができる農園です。種・苗・肥料・年間栽培計画などは当園で完備しているので、手ぶらで来ていただいています。食べ方や時期による栄養価の違いも知っていただきたい思いから、講習会では鮮度や旬の大切さや調理法も説明しています。



みんなが期待！イチゴ栽培体験

東京おひさまベリーは農業体験の品種としてキャッチーでしたね。イチゴを嫌いな人はまずいませんから。利用者の期待度はとても高く、自分の手で良いイチゴを栽培できたことに感激していました。収穫量や品質などの出来不出来は体験農園の満足度に比例していません。良品が1、2個でも皆さん喜んでくれています。なぜなら、この利用者さんは畑での体験を求めて楽しんでいる方々だからです。でもやはり味には敏感なので、こちらでは品種を吟味して選定しています。東京おひさまベリーは**味や香り、大きさは、売り物並みのものが収穫でき、申し分ありませんでした。**東京おひさまベリーは1区画に苗5株を配布する形で行いましたが、他の野菜の手間と比べても**「簡単にできた」という印象**があり、育てやすかったと思います。

夏の暑さ対策が大切！

2021年の東京おひさまベリーの栽培は、2020年の9月と10月にランナーで増やした子株で行いました。一番目の子株でも良いのですが、**二番目の子株のほうが適しているのでは**と思います。イチゴは暑さにあまり強くないので、**1日中陽が当たる場所を避けて植え付けました。**

株によって生産量のバラつきを感じ、特に二番目の子株になると収穫量の差が顕著になった印象です。その場合は利用者さんには予備の苗を提供していました。こまめな水やり・暑さ対策など管理の頻度による個人差も原因だったのかもしれませんが、もしこのバラつきが株によるものなら今後の課題ですね。

加藤さんの工夫

病気対策 園芸用殺菌剤を2回散布

茶褐色の葉は早めに除去

雑草対策 除草剤は使わず、黒マルチで対応

暑さ対策 こまめな水やり + 遮光

害虫・害鳥対策 防鳥ネット



イチゴだからこその惹きつける魅力

比較的収穫量が少ないので、採算が難しい印象はあるかもしれませんが。しかし**一度食べたらその評価は高く、人を惹きつける魅力があります。**当園でも、イチゴの収穫時期に利用者さんがお孫さんを連れてきて摘み取り体験をしたところ、とても喜ばれていました。また、現時点では難しいとは思いますが、花屋での苗販売ができるともっと認知が広がりそうですよね。

これから始める皆さんへ

加藤さんからメッセージ



“イチゴ狩り＝ハウス栽培”のイメージが強いので、「イチゴは家庭菜園で作れない、作ろうと思わない」「家庭菜園では難しく遠い存在」と思っている人がほとんどです。しかし東京おひさまベリーは、つくったらきっとこの魅力に感激すると思います。**「味・香り・大きさ」の三拍子が揃っていることが最大の魅力です。「こんなにおいしいものを自分の手で育てられる感激」を味わえます。**ハウス栽培が主流になり、忘れ去られていた露地栽培用イチゴの良い品種ができたと感じています。東京おひさまベリーのような魅力のある商品は、農産物の中でも意外と少ないのではないのでしょうか。



今の世の中、野菜は2つに分かれています。“規格外健康野菜”と“規格量販店野菜”です。東京おひさまベリーは大規模な栽培と販売にはあまり向かない印象なので、本来の旬の時期に味わえる露地栽培のイチゴであることをPRするのが重要だと思います。



Case 002
体験農園活用事例

成長過程の “喜び”を 共有できる

石坂ファームハウス 代表
石坂 亜紀さん

\ BLOG / \ Instagram /



🍓 お話を伺った石坂さん

400年続く農家。農業の役目として、生産だけではない魅力を伝えたい想いから、2010年「高齢者農業体験農園」、2018年「3世代農園」を開設し、世代間交流の盛んな空間を提供。「東京おひさまベリー」は2019年に導入し、イチゴオーナー制度を15区画展開。



🍓 栽培面積 15区画

株数 240株 [イチゴオーナー制度 120株、自家消費・庭先販売 120株]

利用者 15組ほど

私が運営している講座付き貸出農園は、主に高齢者向けに貸し出す区画とファミリー層向けに貸し出す区画が合わせて40区画あります。それとは別に、イチゴのみの体験農園に特化した「イチゴオーナー制度」というプログラムを15区画設けており、キャンセル待ちの方がいるほど好評をいただいています。



成長するイチゴの姿に驚きの声 続出！

利用者さんはひとつひとつが驚きの連続で、楽しんでいた様子でした。“土に植えたらすぐ育つ”というイメージとは違い、「冬の休眠期は苗が育たず時間がかかること」「お世話してる時間の方が長いこと」「花の可憐さ」「実る花と実らない花の違い」…など、多くの発見があったようです。収穫時期には、毎日足繁く楽しみに通われて喜んで摘んでいく方や、「豊作で容器に入りきらなかった！」など喜びの声を聞くことが多かったです。また中盤の、甘味と大きさ共に良く育ってきた頃には「こんな大きいイチゴ食べたことない！」という感想も多かったです。特にファミリー世代からの反応が良く、“子どものために体験させたい”“新鮮なものを食べさせたい”という想いが需要に繋がったと感じます。収穫時期はGWを挟むので、毎日楽しんでいただけました。



プロでなくても育てやすい

毎年新しい苗を購入し植え付けていますが、苗によるばらつきもなく、**プロと比べても遜色ない出来映えで収穫**できました。栽培マニュアルに掲載されている以外の作業は暖かい時期の草むしり程度だったので育てやすかったと思います。

石坂さんの工夫

雑草対策 黒マルチ

害虫対策 植物由来の農薬散布
茶褐色の葉は早めに除去

害鳥対策 防鳥ネット

害獣対策 電気柵

害虫・害獣対策 株間にニンニクの植え付け



魅力がいっぱい 東京ブランドイチゴ

まず「東京おひさまベリー」という品種名が良いですよ！**東京では初めてのイチゴブランド、味はお墨付き**だと思います。香りが良く、甘味があり粒も大きい。私はやっぱり生食がおすすめかな。

イチゴは栽培期間が長く収穫時期が短いので、イチゴ自体をウリにするよりも、体験農園のように栽培体験ごと提供する方法が向いているのではと思います。イチゴオーナー制度では、ファミリー世代の需要が高いので、“イチゴを通して祖父母の良いところを魅せる”というテーマで高齢者需要を高めるのも良さそうです。

収穫はじめと収穫おわりは甘味より酸味の方が強いため、加工向きかもしれません。2021年に都内の菓子業者様から4区画分の購入依頼もあったほどです。当園では生産量や粒の揃い、安定した供給の難しさからお断りしてしまいましたが、**予約制や高級志向などの販売路線で需要が高そう**だと感じました。

これから始める皆さんへ

石坂さんからメッセージ



当園では、収穫時だけでなく植付け時から子どもたちの参加が多いんです。**植付けができない小さな子でも仕事があるのが体験農園**だと思います。揃える・持ってくる・片付ける…など、その場において同じように自分も一緒に作業する喜びを感じてるのだと思います。小さい子は仕事を見つけてあげると喜ぶので農業がより身近になるし、収穫時にも成長過程を見た子は喜びが大きいです。ときどき、子どもなりの「冬は全然大きくならないね」など発見の感想を聞けたりするので、きっと楽しんでくれていると思います。

「畑のおかげで健康だった」という高齢者さんの感想も多く、役に立て嬉しく、ありがたい気持ちです。コロナ禍で体験農園への入会需要が高まり、2021年は初の満員御礼となりました。講習会やイチゴの手入れなどで訪問した利用者さんへの野菜プレゼントが、イチゴ以外の畑の様子に興味を持つきっかけにもなっているかもしれません。「**畑での体験がその人のライフワーク**になる」ような農園であると良いな、と思っています。



Case 003
直売小売活用事例

軽量品目へ 切り替えたい人に 適した品種



小坂農園
小坂 知儀さん

\ Facebook / \ Instagram /



🍓 お話を伺った小坂さん

国分寺駅から徒歩10分の住宅街の一角に構えた共同農産物直売所「本村七重塔」と並びのパン屋「TERU PAN」などに、家族経営と援農ボランティアで栽培した少量多品目野菜を卸し販売。体験農園も運営。「東京おひさまベリー」は2019年導入。

🍓 栽培面積 10m×25m
株数 500株ほど



ウドや江戸東京野菜の馬込半白キュウリ、その他野菜全般を少量多品目栽培し、直売・学校給食・国分寺駅南口のインショップなど市場外流通にて卸しているほか、体験農園も運営しています。先代は露地のイチゴ栽培経験があったので、東京おひさまベリーの栽培にはすぐに立候補しました。



香り高い甘さが各方面から好評！

甘い香りが強く、味も良かったです。家族からの反応も「甘い」と好評でした。自分も友人へ贈ったところ喜んでくれたので良かったです。

収穫時期にはうちの子どもが畑に友だちを呼んで、みんなでイチゴの摘み採りを楽しんだようでした。甘い香りに誘われてやってきたカブトムシを捕まえることもできたみたいです。

パン屋の店主からは「すごく甘味がありお客様からの評判が良い」と聞いてます。小粒を3、4個乗せるとちょうど良いみたいです。

イチゴは見た目が良いので、一般道から見えやすい場所に定植しています。2020年は収穫量が多めだったので、飲食店への販売や自家消費しても余るほど採れました。

毎年新しい苗を購入して挑戦

当園は野菜の栽培がメインなのでイチゴに手間をかけすぎないようにしていますが、2020年は**マニュアル通りの栽培で難しい点はなく収穫量も多かった**です。苗は毎年新しく購入しています。2021年はおそらく天候の影響で収穫量は少なめでした。2月以降に追肥をしたり、JAに相談などを行いました。暖冬など天候が影響した結果かもしれません。

小坂さんの工夫

雑草対策 黒マルチ

害虫対策 適期の消毒

害鳥・害獣対策 防鳥ネット



直売所や体験農園の目玉になる商品

2022年は庭先直売所でパック詰めして販売する予定です。直売所では甘い農産物も扱いたいので、焼き芋などと並べて目玉商品として売り出したいと思います。コロナ禍を機に客層に変化があって、近隣住民の方がよく買いに来てくれるようになりました。最近はおぶりサイズのハウス大根がお客様から好評なので、イチゴも**食べきりサイズで価格を抑えて販売**しようと思っています。量が欲しい方は2パック購入してもらう方針です。

2022年に安定した数量を採ることができれば、2023年は株を増やして摘み採り体験もやりたいと家族で話しています。



これから始める皆さんへ

小坂さんからメッセージ



東京おひさまベリーは露地栽培ができる分、設備の初期投資が少ないので、露地野菜農家でも自分のスタイルに合わせて気軽に始められるのが良いですね。野菜の収穫量が減少する5月の**売上をこのイチゴで補てんする戦略**も可能になります。

また、高齢化や人手不足によって手間がかかったり**重量のある野菜の生産を減らしている方にとってはとても良い品目**だと思っています。サトイモ・ナス・キュウリなどに特化していた農家さんでさえも、相次いで栽培を止めていく方向に切り替えていると聞きます。重量系野菜栽培のベテラン農家の切り替え作物として、軽くて高単価のイチゴが普及すると認知度が上がるかもしれません。

東京おひさまベリーは学校給食への提供ができると食育活動に良いし、畑見学も可能になりますよね。住宅の中にある畑や直売所で食への理解や認知を広められるのも、**都市農業ならではのメリット**だと思います。



Case 004
直売小売活用事例

データで攻める 新品種への 価値創造

梨さとう園 代表
佐藤 英明さん

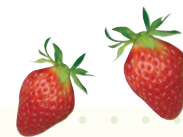
WEBSITE /



🍓 お話を伺った佐藤さん

全国から注文依頼が届く珍しい種類の日本ナシを中心に柑橘類、カキ、各種野菜、水稻を生産管理。先進事例となる援農ボランティアとの関係構築には全国から視察依頼がある。東京都エコ農産物認証取得の認定農業者であり東京都指導農業者。「東京おひさまベリー」は2020年に導入。

🍓 栽培面積 80㎡
株数 240株
収穫量 120kg



日本ナシ栽培中心に多品目栽培をしています。生産状況や肥料・農薬情報、売上、顧客情報などはどの作物も全てデータ化して管理しているため、「東京おひさまベリー」も全て数値化しています。

種苗登録情報をキャッチしてから「なにがなんでもほしい！」と、思ってすぐに申し込みました。



希少価値が高い 季節限定品！

とにかく香りが良い。口に含んだときの独特の香りが特徴的との声が多いですね。「東京都が長い期間をかけて開発した品種」であり「なかなか手に入らない」「季節限定」という価値は、**とても魅力**がありますよね。

5月前半頃の最盛期は味・形ともに一番良かったかな。梅雨時期は味が薄くなるので加工などが向いているかもしれません。パンケーキに混ぜ込み焼いてみてもとてもおいしかったです。**果実が中まで赤いと加工するにはとても良い**ですよ。

データに強い果樹農家流 土づくり

土づくりは徹底的にやります。土を柔らかく水はけを良くするために、緑肥としてソルゴーの栽培、日本ナシの剪定枝を粉碎したチップや落ち葉、米ぬかなどを混ぜた自家製堆肥をすき込んでいます。

苗は毎年導入しています。自家増殖の苗で一部栽培しましたが、新しい苗の方が断然強かった。またこのイチゴは縦に伸びてからすごい勢いで繁るので、マニュアルよりもずっと広めに株間を取りました。

3月20日過ぎに気温20度以上の日が続いた2021年は全体的に不調で、3段目以降の花が咲きませんでした。対策としては植付け時期を少し遅らせることがポイントです。10月中旬以降に植付けした方が良いかもしれません。

佐藤さんの工夫

- 病気対策 枯葉の除去
- 害虫対策 薬散布
- 害鳥対策 防鳥ネット
- 冬季対策 敷きわら



“成熟した消費者”が求めるプレミアム感

デパートのバイヤーは「成熟した消費者にとっては**“期間限定・数量限定”がプレミアムで魅力**」と言います。「その時しか食べられない旬を楽しむ」価値を提供したいですね。

パッケージは**運搬対策として積み重ねられるものや、衛生対策として蓋があるものが求められます**。当園では食べ切りサイズの小さめパックを使っていて、卸値は200円ほどで小売店などに毎日販売しました。最盛期には1日に30パックほど卸していました。

2020年は6月末まで収穫できました。7月以降も収穫自体はできますが、直売所販売ではパック内が蒸れてしまうため販売方法に工夫が必要と感じました。

これから始める皆さんへ

佐藤さんからメッセージ



良い商品をつくるためには、**土のこと・植物の生理生態などの農業の基本をしっかりと学ぶことです**。やはり遊び半分ではできません。

今は、東京おひさまベリーは野菜農家が栽培することが多いと聞いていますが、実は**果樹農家にとっても向いている**のではないのでしょうか。栽培における肥料の使い方や考え方が合っていると感じます。

ただし問題は、日本ナシやブドウの管理作業などの繁忙期とイチゴの収穫時期が重なること。私の園では娘が管理、収穫していますが240株が限界なので、果樹メインの農家はなかなか手を出しづらいかもしれません。

新しい品種へ挑戦するメリットは、競合相手がいないこと。3年かければだいたい栽培のコツが分かり、生産量を増やせます。あらゆる品種でいろいろな実験をしながら栽培する経験があれば、新品種を育ててみてほしい想像がつくようになるんです。「これをやったらこうなるんじゃないか?」、その積み重ねだと思います。

